

# 自殺対策に臨床宗教師

## 京都府カフェで傾聴活動

龍谷大と提携

被災地や医療現場で心のケアに当たる「臨床宗教師」を自殺対策に活用しようとして、京都府が今年度中に龍谷大（京都市）と提携し、委託事業を始めることが21日、関係者への取材で分かった。臨時のカフェでの「傾聴」を通じ、遺族のグリーフ（悲嘆）ケアや、死にたい気持ちを持つ「希死念慮

者」の自殺防止につなげる。行政機関が臨床宗教師を活用する全国初の取り組みとして注目されそうだ。臨床宗教師は、宗教や宗派の違いを超えて人々の悲嘆や苦悩に耳を傾ける「傾聴」を行う宗教者。布教や勧誘を一切行わず、特定の宗教団体を利する目的がないため、府は政教分離の原

則に抵触しないと判断した。府は平成25年度から臨床宗教師の活動に注目。東日本大震災の被災者支援として、僧侶や牧師らがボランティアで仮設住宅の集会所などをめぐる移動傾聴喫茶「カフェ・デ・モンク」を視察し、自殺対策に活用できな

きないか検討してきた。計画では、府内の公民館などを会場に臨時のカフェを開設。臨床宗教師が、自殺者の遺族や希死念慮者の心のケアに当たる。事業費として100万円を今年度予算に計上している。委託先となる龍谷大は、26年度に大学院で臨床宗教師の養成を始め、これまでに11人が修了。27年度からは宗教や宗派を問わず、社会人の宗教者にも門戸を広げており、13人が受講している。すでに91人を輩出している東北大にも事業への協力を求める。府は「自殺の危機は何人

にも発生し得る」として、27年4月から都道府県としては初めて、自殺対策条例を施行するなど重点的に取り組みを進めている。26年度には、民間団体など9市町で計11回、相談会も開催。主に臨床心理士が心のケアを担当していたが、死後の世界や救いの有無など、宗教的な死生観がないと答えられない苦悩が多く寄せられたという。府福祉・援護課の担当者は「特定の宗教に偏らず、傾聴の訓練を受けた臨床宗教師なら対応できる。生きづらさを感じる人たちの居場所をつくり、自殺防止を図りたい」と話している。

2015年6月22日(A)